

ネットワーク資料保存 第122号 2020年10月

日本図書館協会
資料保存委員会

日本図書館協会資料保存委員会見解

「図書館資料の取り扱い（新型コロナウイルス感染防止対策）について」

日本図書館協会資料保存委員会

日本図書館協会は、2020年5月14日、「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を発表しましたが、資料の取り扱い

いに関する感染予防対応については、「資料へのウイルス付着に関係する対策については、現時点で、オーストリア図書館協会等をはじめとする海外の関係団体が公表している情報において、返却後の資料を一定期間保管・隔離したり、返却そのものを延期したりすることを推奨する例が見られるため、これらを参考にすることが考えられる。」としました。

さらに具体的にどうしたらいいのかということをもとめられているのではないかと考え、資料保存委員会では以下のような「見解」を、7月6日に公表しました。

日本図書館協会資料保存委員会

2020年7月6日

図書館資料の取り扱い(新型コロナウイルス感染防止対策)について

一人と資料を守るために

図書館資料を介した新型コロナウイルス感染を防ぐ対策について、日本図書館協会資料保存委員会の現時点での考え方を以下のとおりまとめました。各館で今後の対応を検討する際の参考にしてください。

CONTENTS

日本図書館協会資料保存委員会見解「図書館資料の取り扱い (新型コロナウイルス感染防止対策)について」	資料保存委員会	1
図書館の水害対策 「行っていない」が6割 NHK調査		5
＜参加報告＞日本図書館協会資料保存委員会主催		
「国立国会図書館の概要と東京本館及び資料保存業務見学」	花上 真一	6
資料紹介 『水濡れから図書館資料を救おう!』	田崎 淳子	8
委員会の動き		9

資料を介した新型コロナウイルス感染を防ぐ最も効果的な対策は、資料利用前後の手洗い・手指の消毒と、利用された資料の一定時間の隔離だと考えます。

【手洗い・手指の消毒】

利用の前の手洗いや消毒は、もし自分がウイルスを持っていた場合に資料にウイルスを付着させないためであり、利用の後の手洗いや消毒は、もし資料にウイルスが付着していた場合に自分に付いたウイルスを除去するためです。また、資料利用中にはマスクを着用して、手指で顔を触らないようにすることも有効です。

【一定時間の隔離】

●隔離によってウイルスを不活性化させる

ウイルスは時間経過によって不活性化します。どのような物質に付着しているかによってウイルスの残存時間は違ってきますが、不活性化の時間に関する研究結果や見解は世界各国の機関から出されています。米国立アレルギー感染症研究所の実験結果によると、ウイルスが不活性になるまでの時間は、紙の上では 24 時間、プラスチックでは 72 時間です(※1)。この結果を参考にしている機関は多く、また、WHO の見解を受けて、日本の厚生労働省も同じ数字を示しています(※2)。その他の現時点での研究結果や見解をみると、隔離時間は 24 時間から 72 時間というのが妥当と思われる。

利用後の資料を一定時間「隔離」することは、時間の経過を待つだけなので安全であり、資料に与える影響もありません。保管場所さえあればコストも発生しませんので、非常に現実的で効果的な方法です。

しかし、利用の多い資料で、その隔離の「時間」が待てないような場合は、資料の利用前後の手洗い・手指の消毒を徹底することがより重要になります。

【資料の消毒について】

消毒については以下のような方法もありますが、それぞれ注意が必要です。

●消毒液によって消毒する方法

表面がプラスチックのもの(フィルムカバーをした本やディスクケースなど)は消毒液を用いて清拭しても問題ないものが多いです。

しかし、紙自体を消毒液で消毒することは、次の理由から推奨されていません。

- ・ 消毒液が紙に悪影響を与える可能性があります。
- ・ 消毒液に含まれる水分が、紙の変形を引き起こす可能性があります。
- ・ 製本された資料の紙を 1 枚ずつ消毒することは非現実的です。

また、製本クロスや革の表紙、カラー印刷された塗工紙(アート紙やコート紙など、表面に塗料を塗布し、美感や平滑さを高めた紙)等に消毒液を塗布すると、変質したり退色したりする可能性があります。

●紫外線照射による方法

紫外線は細菌やウイルスに対して殺菌、不活性化に効果があるとされていますが、現段階では、紫外線の新型コロナウイルスへの効果はまだ立証されていません。各国の機関の見解では紫外線照射は推奨されておらず、むしろ否定的です。その理由は次のとおりです。

- ・ 紙の劣化等の悪影響があります。もともと紫外線は紙にとって大敵です。
- ・ 資料の表紙だけでなく、本文全ページの内側に紫外線を照射し、ウイルスを完全に不活性化させるのは困難です。「紫外線殺菌照射による殺菌は、一般的に 1 cm²あたり 2~5 ミリジュールの暴露で効果が出るが、完全な暴露でなければ効果的ではなく、製本された本での達成はほぼ不可能」という指摘(※3)もあります。

まず図書館職員が、有効性が確認されていない消毒方法を資料に用いることによって資料に悪影響を与えてしまう危険性を理解しましょう。そして、利用者にも基本的な対策方法を周知することが大切です。ポスターなどで「資料の利用前後の手洗い・手指の消毒」を呼びかけ、環境を整備しましょう(※4)。

- ※1 van Doremalen, Neeltje et al. “Aerosol and Surface Stability of SARS-CoV-2 as Compared with SARS-CoV-1.” *New England Journal of Medicine*, vol.382,no.16 ,2020.3.17, p.1564-1567. <https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/nejmc2004973> (電子版 2020.4.16)
- ※2 厚生労働省「新型コロナウイルスに関する Q&A(一般の方向け)令和2年6月 30 日時点版「問2 新型コロナウイルス感染症にはどのように感染しますか。」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html#Q2-2
- ※3 Ewen, Lara. “How to Sanitize Collections in a Pandemic: Conservators weigh in on the mysteries of materials handling during COVID-19,” *American Libraries*, 2020 年 3 月 27 日付ブログ記事(翻訳:資料保存委員会)
<https://americanlibrariesmagazine.org/blogs/the-scoop/how-to-sanitize-collections-covid-19/>
- ※4 たとえば次のような事例
- ・ 埼玉県立図書館「手を洗おう」ポスター
<https://www.lib.pref.saitama.jp/information/2020/06/news-20200618-hozontearai.html>
 - ・ 浦安市立図書館「新型コロナウイルス感染防止のお願い」
<http://library.city.urayasu.chiba.jp/news/news/koronasiryo.pdf>
(URL の参照日は 2020 年 7 月 3 日)

【補足】

2020. 7. 20

この「見解」を公表後、複数の図書館から「紫外線による消毒」についての考え方について質問が寄せられましたので、以下のように補足をまとめました。

当資料保存委員会の「図書館資料の取り扱い(新型コロナウイルス感染防止対策)について一人と資料を守るために一」(以下「見解」)の紫外線による消毒には、①資料保存の観点から「否定的」なのか ②新型コロナウイルスへの有効性について「否定的」なのか、という2つの点があります。

①「資料保存」の観点からは「否定的」です。

紫外線は紙を劣化させます。実際に販売されている「消毒器」がどの程度の照射量なのか不明ですが、少なくとも良いことはありません。貴重な資料(長期保存)については避けるべきです。保存年限の短い、すぐに買い替えたり、廃棄したりするような資料については「安心感」とのバランスで各館において判断してください。

②新型コロナウイルスへの有効性については「否定」ではありませんが、「不明」「科学的根拠がない」ということです。そして「現実的にも不可能」であろうと思われま

す。紫外線で細菌等が殺菌できることは知られています。市販の「図書消毒器」の中にはいくつかの細菌類に対しては効果あり、とうたっているものもありますので実証されているかもしれませんし、一部の製品ではそのデータも公表していますが、新型コロナウイルスに対しての実証はありません。「期待はできるけど・・・」というレベルだということで、もし利用者等から問われても「これで安全安心です」とは言えません。科学的根拠がありませんから。

また、もし殺菌できたとしても相当量の照射量が必要なので、①との関係もあつてますます要注意ということになりますし、しかも、各ページ1枚1枚を暴露する必要がありますからこれを現場で行うことは現実問題として不可能でしょう。

以上の理由から、資料保存委員会としては、最も安全で現実的で確実な方法として、「利用前後の手洗い・手指の消毒」と、資料自体の「消毒」については、資料を傷める可能性があったり、効果が不明な方法ではなく、「隔離」を推奨

します。

その上で、どうするのかは各館の判断と責任でやっていただくことになろうかと思えます。

「見解」は、新型コロナウイルス対策についての見解です。その他の細菌やウイルス等については、上の文章にあるように、一般的に、紫外線照射によって殺菌できることはよく知られています。例えば、波長 254nm、15W で、大腸菌等の細菌を直接照射で、約 1 分でほぼ 100% 殺菌できるという国立衛生試験所の試験結果もあるようです。「見解」でも「紫外線は細菌やウイルスに対して殺菌、不活性化に効果があるとされていますが、現段階では、紫外線の新型コロナウイルスへの効果はまだ立証されていません。」としました。

しかし、具体的な「図書消毒器」については、波長、照射量、効果等のデータ類がほとんど公表されておらず、新型コロナウイルス以外の細菌やウイルスに対しても、どの程度の効果が実証されているのかわかりません（上の文章の下線部分）（※）。

（※一部の製品で、大腸菌と黄色ブドウ球菌に対して 45 秒照射で書籍表面を 100% 殺菌したというデータが公表されています。）

そもそも「消毒」は、「対象微生物の数を減らすために用いられる処置法」で「すべての微生物を対象としてそれらをすべて殺滅または除去する方法（滅菌）」ではありません。少しでも菌を減少させれば「消毒」と言えるので、そういう意味では何らかの「消毒」はなされているのかもしれませんが、どの程度なのかわかりません。

また、書籍を消毒する場合、表紙だけでなく、本文部分も完全に消毒するためには、本のページ一枚一枚を処置する必要があります。消毒液にしろ、紫外線にしろ、それを行うことは現実的には不可能と言えらると思えます。

因みにそのような「指摘」は（※3）の他にもあります。例えば以下です。

【米イースト文書保存修復センター（NEDCC）】

「（消毒）液体消毒剤、紫外線による滅菌はコレクションに有害なため推奨しない。特に、（書籍の本文など）紫外線が照射されない部分は消毒できない。」

<https://www.nedcc.org/free-resources/preservation-leaflets/3.-emergency-management/3.5-disinfecting->

[books?fbclid=IwAR23r_5oAzRo7oomVcN15WeW8jUu1wzANd5BIqEhVSuK376LYbyZbiE3kk](https://www.nedcc.org/free-resources/preservation-leaflets/3.-emergency-management/3.5-disinfecting-books?fbclid=IwAR23r_5oAzRo7oomVcN15WeW8jUu1wzANd5BIqEhVSuK376LYbyZbiE3kk)

【米国立保存技術及び訓練センター（NCPTT）】

「殺菌効果のある紫外線は特定の周波数のものであり、新型コロナウイルスの殺菌に推奨する信頼できる研究論文は見つけられなかった。紫外線は長時間照射により写真や紙に影響を与える可能性がある」

Covid-19 Basics: Disinfecting Cultural Resources (NCPTT, 2020/3/25)

<https://www.ncptt.nps.gov/blog/covid-19-basics-disinfecting-cultural-resources/>

蛇足ですが、この二つの機関は、つい先日 7 月 15 日、米国図書館協会（ALA）が公開した “ALA COVID-19 Recovery website” <http://www.ala.org/tools/covid-19-recovery>

でも、「資料の取り扱い」について「指導」を受けるべき機関にあげています。また、情報を入力した限りでは、消毒液や紫外線による消毒を推奨する国はなく、どこも一定期間の隔離（検疫）を採用しています。

「現時点では新型コロナウイルスには効果なしであっても、その他のウイルス及び汚れ等が除去されるため、”利用者の安心”のために導入を検討している」場合もあろうかと思えます。繰り返しになりますが、「その他のウイルス及び汚れ等が除去される」についても私どもにはどの程度除去されるのか等、現時点では不明な点がありますが、利用者の「安心感」とのバランスで、どうするのかは各館の判断と責任でやっていただくことになろうかと思えます。「見解」はあくまで「資料保存委員会の現時点での考え方をまとめ」、「各館で今後の対応を検討する際の参考に」していただきたいものです。業界団体としての日本図書館協会がすでに出しております「ガイドライン」（指針）のような、「強制力」を持ったものではありません。

消毒液を資料に噴霧する事故があったり、一般に「（新型コロナ対策は）紫外線で消毒すれば（基本的な対策はしなくとも）大丈夫」という誤解もあるようですので、あえて「見解」を出させていただきました。

なお、これはあくまで現時点でのことで、今後、新型コロナウイルスへの紫外線の有効性や非有効性について新しい実証結果が出てくるか

もしも。その際は「見解」を改訂いたします。

「あまり対応できない」が9館、▽「ほとんど対応できない」が3館ありました。

図書館の水害対策

「行っていない」が6割 NHK調査

激甚化が激しい水害ですが、昨年2019年10月の台風19号でも、各地の図書館、そして資料が被災しました。今までなかったことですが、マスコミ各社は、図書館の被災、特に資料の被災について大きく報じました。

NHKは2020年4月16日、ニュース番組「おはよう日本」のなかの「けさのクローズアップ」というコーナーで、図書館資料の被災と資料防災の現状についてのまとめのような番組を放映しました。

題して「図書館の本 どう水害から守る」というこの番組。長野県千曲市更埴図書館の事例や東京都立図書館の資料防災の取り組みを紹介する内容でした。そして、番組内ではほとんど紹介されませんでした。番組制作にあたって、全国の都道府県立図書館に「資料防災」についてのアンケート調査を行っています。その概略が公表されていますので下記に紹介させていただきます。

図書館の水害対策について、NHKが全国の都道府県立の図書館にアンケート調査を行ったところ、水害を想定した対策や準備を行っていない館が6割にのぼることがわかりました。

NHKは、多くの図書館が浸水や雨漏りの被害を受けた去年の台風19号＝東日本台風から半年になるのを前に、ことし3月、都道府県立の47の図書館を対象にアンケート調査を行い、すべての館から回答を得ました。

このうち、「水害を想定した対策や準備を行っているか」という質問に対しては、およそ6割にあたる29の図書館が「行っていない」と回答しました。

この29館に対策や準備を行う必要性を感じるか尋ねたところ、27館が「感じている」と答え、多くの図書館が対策や準備の必要性を感じながらも行っていない現状が浮き彫りになりました。

また、水害に遭った場合にどの程度対応できるか尋ねたところ、▽「ある程度対応できる」が19館と最も多く、▽「十分対応できる」も3館あったものの、▽

調査結果について、図書館の事情に詳しい慶應義塾大学の糸賀雅児名誉教授は「図書館における災害対策は人命救助を中心に検討されてきたため、水害が起きた時に資料をどう守るかについては二の次になっていた」と指摘したうえで、「まずは資料を避難させるためのマニュアルを作り、研修や訓練を通じて本を守る意識を職員に浸透させることが必要だ」と話しています

主な回答結果

今回のアンケート調査の主な回答結果です。質問の文言は一部変えているところがあります。

▽水害を想定した資料防災の準備や対策を行っていますか。

- ・ 行っている……………18(38%)
- ・ 行っていない……………29(62%)

▽「行っている」と答えた施設にうかがいます。具体的にどのようなことを行っていますか。(複数回答)

- ・ 水害に遭った際の手順などを定めたマニュアルを作成する……………8
- ・ 避難させる資料の優先順位をつけている……………7
- ・ 水害に遭った時に備えて必要な資材を準備する……………6
- ・ 資料防災を目的とした訓練をしている……………2
- ・ 水害を想定した点検や確認を定期的に行っている……………8
- ・ その他8

▽「行っていない」と答えた施設にうかがいます。その理由について教えてください。(複数回答)

- ・ 日々の業務が忙しく、時間がない……………4
- ・ 統一の指針などがなく、進め方が分からない……………5
- ・ 知識やノウハウがなく対応できない……………3
- ・ 必要性を感じない……………1
- ・ その他……………23

「その他」は、高台に立地していることやハザードマップの浸水区域に含まれていないことなどを理由に、水害を想定しにくいという回答が、過半数を占めています。

▽「行っていない」と答えた施設にうかがいます。近年の災害で図書館の資料への被害が相次いでいますが、準備や対策の必要性を感じていますか。

- ・ 感じている……………27(93%)
- ・ 感じていない……………2(7%)

▽「感じている」と答えた施設にうかがいます。具体的にどういった準備や対策が必要だと感じていますか。(複数回答)

- ・ 水害から資料を守るためのマニュアルを作成する……………16
- ・ 避難の際に資料の優先順位をつける……………14
- ・ 水害に遭った時に備えて必要な資材を準備する……………11
- ・ 資料防災を目的とした訓練をする……………15
- ・ 水害を想定した点検や確認を定期的に行う……………16
- ・ その他……………6

▽水害に遭った場合、対応はどの程度できると考えていますか。

- ・ 十分対応できる……………3(6%)
- ・ ある程度対応できる……………19(40%)
- ・ あまり対応できない……………9(19%)
- ・ ほとんど対応できない……………3(6%)
- ・ わからない……………13(28%)

▽水害に遭った際に各都道府県内の図書館や関係機関との間で連携・協力する体制はできていますか。

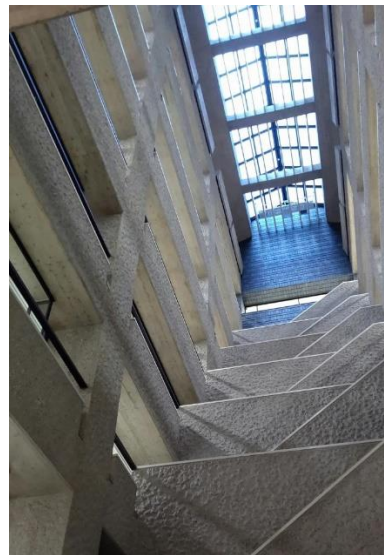
- ・ できている……………18(38%)
- ・ できていない……………28(60%)
- ・ その他……………1(2%)

き、本年の1月20日(月)「国立国会図書館資料保存課見学会」にも参加した。

私事になるが、①まず、昨年11月18日(月)、某法人主催「農学図書館情報セミナー&見学会」に参加、国立国会図書館電子情報部電子情報企画課から、「ジャパンサーチ」の概要並びに当該活用法の解説を受けた後、館内見学をした。

②次いで、本年1月16日(木)及び1月17日(金)、国立国会図書館関西館図書館協力課研修交流係主催「レファレンス・サービス研修—人文情報を中心に—」に参加、レファレンス・サービスの理論とともに、特定分野のレファレンスツールや調べ方についての研修を受けた(※その後、館内見学があったが、すぐにこの見学会が控えていたため、遠慮した)。

③そして、本年1月20日(月)、資料保存委員会主催「国立国会図書館資料保存課見学会」に参加、本年度3回目となる国立国会図書館への来館である。



新館書庫 光庭(ひかりにわ)

地下8階まで自然光が届き、書庫内で働く人に安心感を与える。

<参加報告>資料保存委員会主催

「国立国会図書館の概要と東京本館及び資料保存業務見学」

花上 真一

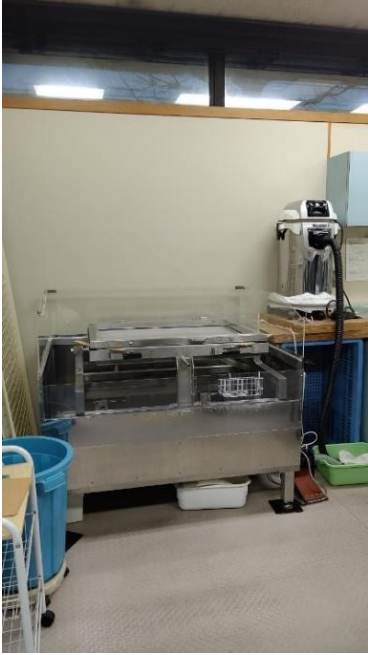
昨年12月16日(月)、資料保存委員会主催「立正大学古書資料館見学会」に参加し、大変有意義な刻を過ごすことができたため、引き続

最初に、映像による国立国会図書館の概要説明(関西館を含む)を受け、その後、館内の見学に向かった。新館の地下8階建ての書庫(※東京の地下施設としては2番目か3番目の深部にあるようだ)。目に入ったのが「国立国会図書館 NDL」(Twitter)

<https://twitter.com/NDLJP> のカバー写真にある長い書庫通路。職員の方に尋ねてみると「約135メートル」。雑誌所蔵書庫では、雇用系雑誌に村上春樹氏の小説が初出していることを聞く。館内を移動する際、池田満寿夫氏作の西陣織の巨大タペストリーが目につく(※10年に一度、水洗いしているとのこと)。

館内見学の後、いよいよ国立国会図書館資料保存課にお伺いした。

国立国会図書館は、日本で唯一の納本図書館であり、長い年月をかけて収集した多くの資料を国の文化遺産として保存している。それらの貴重な資料を後世に伝えていくためには、同課の果たす役割は、非常に大きいと考えられる。



すきばめ機

東日本大震災で被災した、陸前高田市の吉田家文書をこの機械で修復した

今回の見学会に参加しなければ、おそらく伺うことはなかったであろう同課のオフィスは、とても広かった。当該スペースに適度な距離を保ちつつ、同課担当毎に執務机が並んでいた。

そこで、同課担当毎に、国立国会図書館における資料保存対策を種々お聞きした。①保存環境の整備（書庫内の温湿度管理、虫菌害対策等）、②予防的な手当（保存容器の利用、補強、劣化原因の除去等）③破損資料の修復等、④媒体変換及び⑤電子情報の長期保存。

そして、そこには、なかなか見ることがない、和紙繊維による資料すきばめ機械（2種類）及び紙類を裁断する裁断機並びに地図等、

大きな資料を修復するための和室（畳部は18帖ある）があった。



和室での説明

保存箱、脱酸素法による殺虫、補修の見本、展示の支持具など

再度、私事になるが、前記②に記した「レファレンス・サービス研修」、応募多数の場合は抽選となる。筆者は、過去3回申し込みをし、運良く全て抽選に通っているとのこと。そして、筆者が担当しているブログ「聖心女子大学図書館広報オンライン」(<https://library.u-sacred-heart.ac.jp/koho/>)が国立国会図書館インターネット資料収集事業「WARP」に収録されている。少なからず、国立国会図書館との縁を感じるため、今回、執筆機会を頂いたことに感謝申し上げる。

最後に、某大学主催「西洋社会科学古典資料講習会」に参加した際、国立国会図書館職員の方とお話する機会があり、あえて前記した「関西館」の話題となる。その方から、「電車バスと行くのに時間を要するが、時々とても行きたくなくなる」。筆者も、過去2回「関西館」に来館したが、同じく「時々とても行きたくなくなる」。そろそろ、その時期を迎えている。実現は難しいかも知れないが、今度は「関西館」の見学会を期待しつつ、この参加記を閉じることにしたい。

(はなうえ しんいち・聖心女子大学図書館)

『水濡れから図書館資料を救おう!』(JLA Booklet no. 6)

●眞野節雄 編著

●発行：日本図書館協会 ●2019年10月

●A5版 70頁 ●ISBN: 978-4-8204-1907-5 1,000円+税

はじめに

第1章 なぜ「水濡れ」が問題なのか

第2章 「事前対策」こそが肝心－資料防災の「予防」と「準備」

第3章 水濡れ発生! どう動く?

第4章 大規模災害にあったら

第5章 大規模災害の被災資料を救え!－陸前高田市立図書館郷土資料

第6章 困ったときの情報源・参考資料

未来へ資料をつなぐ－あとがきにかえて

本書は、東京都立中央図書館資料保全員の職にあり、日本図書館協会資料保存委員会委員長を長年務める筆者が、それぞれの活動から得た具体的な知見に基づくものである。全体を通じて、近現代の洋装本を念頭に置いた図書館資料の「水濡れ」への対策、特に初期対応の重要性（時機を逸するとカビや腐敗により取り返しがつかなくなってしまう）と、あきらめずに取り組む姿勢が救出につながる点とが、繰り返し解説されている。

第1章では、さまざまな被害の中でなぜ「水濡れ」が問題となり、一刻を争う対応が必要となるかが説明されている。また、特に「塗工紙」（アート紙やコート紙など、表面に塗料を塗布し、美感や平滑さを高めた紙）を含む本の手当てに注意が必要なことに触れている。

第2章では、防災こそが最善の対策という考えのもと、平常時の「事前対策」、すなわち、有事に備えた資料の優先順位の設定や、設備状況の把握、有事を想定した行動マニュアルの策定、被災時に必要な資材の備えなどが有効であることを、都立中央図書館の対応を紹介しつつ述べている。

第3章では、いよいよ被害が発生した時にどのように行動するかを一連の流れ（資料の発見から乾燥、再配架まで）に添って詳しく説明する。また、すぐ対応ができない場合の冷凍保存など、「時間稼ぎ」の方法についても紹介されている。

第4章では、大規模災害が起こった際に考えるべき事柄と、都立中央図書館が関わった最近の事例をふたつ紹介する。

更に第5章では、東日本大震災時に津波被害にあった陸前高田市立図書館の郷土資料について、救出の実際と修復作業を詳しく述べている。

第6章では、発災時の相談先や参照すべき情報源を紹介する。

最後のあとがきは、資料保存に長く取り組む筆者の実感がこめられた「未来へ資料をつなぐ」図書館の使命と、「あきらめてはいけない」というメッセージで締めくくられている。

紙媒体を中心とする図書館資料はそもそも水の事故には弱いものだが、近年では地球温暖化の影響と見られる災害がとみに増えた印象がある。本書が刊行された2019年には、九州地区の豪雨や、台風による多摩川の氾濫を受けた図書館の被災が報告された。「水濡れ」への備えと対策をコンパクトにまとめた本書の刊行は、まさに時宜にかなったものと言えるだろう。都立中央図書館ウェブサイトでは、本書で紹介がされている「資料防災マニュアル」や、マニュアル動画「被災・水濡れ資料の救済マニュアル」が公開されている。本書と合わせて、各館での対策検討に有用であると考えられる。

（田崎淳子 東京大学法学部研究室図書室）

2019年12月 定例会

日時:2019年12月11日(水)

場所:日本図書館協会会議室

出席:7名(オブザーバー含む)

内容:

報告事項 (見学会:立正大学古書資料館 当日予定最終確認、国立国会図書館資料保存課 広報、参加者確認、ほか/セミナー 候補検討/「ネットワーク資料保存」:121号進捗状況、122号候補/全国図書館大会 報告、記録等今後の予定確認/川崎市市民ミュージアムの被害について)

2019年12月16日

立正大学古書資料館見学会

参加者 16名

2020年1月 定例会

日時:2020年1月15日(水)

場所:日本図書館協会会議室

出席:10名(オブザーバー含む)

内容:

報告事項 (見学会:立正大学古書資料館報告、国立国会図書館資料保存課当日確認等、その他候補について/セミナー:候補交渉状況報告、企画案/「ネットワーク資料保存」:121号掲載原稿調整、122号候補募集、100号以降のホームページアップ完了/全国図書館大会:記録の進捗状況/川崎市市民ミュージアム:現状報告)

2020年2月 定例会

日時:2020年2月19日(水)

場所:日本図書館協会会議室

出席:7名(オブザーバー含む)

内容:

報告事項 (見学会:候補交渉報告、その他候補検討/セミナー:候補検討/「ネットワーク資料保存」:121号アップ済、122号候補検討)

協議事項 (全国図書館大会:和歌山大会分科会テーマ検討)

その他 (委員長会議出席について ほか)

2020年3月 定例会

日時:2020年3月18日(水)

場所:日本図書館協会会議室

出席:8名(オブザーバー含む)

内容:

報告事項 (見学会:斯道文庫、日程他詳細検討、その他候補検討/セミナー:候補日程調整等検討/「ネットワーク資料保存」:122号候補検討)

協議事項 (全国図書館大会:和歌山大会分科会テーマ決定、詳細検討)

その他 (委員交代による引継ぎについて)

*4月、5月例会中止

2020年6月 定例会

日時:2020年6月24日(水)

場所:日本図書館協会会議室

出席:10名

内容:

報告事項 (「ネットワーク資料保存」:122号候補検討/見学会:斯道文庫延期、その他候補検討/セミナー:候補後半延期で検討/全国図書館大会:準備日程確認)

協議事項 (全国図書館大会:オンライン原稿提出、時間配分、内容検討/新型コロナウイルスと資料保存:意見交換と対策情報)

その他 (協会倉庫の出版物等の整理について)

ネットワーク資料保存 第122号 2020年10月

編集・発行:日本図書館協会 資料保存委員会
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03-3523-0816 FAX03-3523-0841
URL <http://www.jla.or.jp/committees/hozon/tabid/96/Default.aspx>

* 文章・写真の無断転載はお断りいたします。
